



●発行 2019.1.15. NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

●発行責任者 川岸卓哉

■新年ごあいさつ■



あけましておめでとうございます。

昨年も、設立以来の理念である「原発ゼロ」「再エネ普及」を掲げ、精力的に活動を行ってきました。2018年2月には、うしおだ診療所（公益財団法人横浜勤労者福祉協会）の屋上に太陽光発電所3号機が完成した記念として「通電式」を開催し、大勢の方に参加していただきました。3号機のファイナンスは、公的機関である神奈川県及び日本政策金融公庫から信用付与を得ました。さらに、4号機については、会員所有の川崎市中原区のマンション屋上に建設が決定し、現在、施行方法やファイナンスなどの検討準備を進めており、2019年中の建設を目指して動き出しました。

政策面では、川崎市再生可能エネルギー市民条例案が、かながわ生き生き市民基金の寄付プロジェクトに採用されたのを機に、川崎地域エネルギー市民協議会をプラットフォームに、川崎市内各地での自主上映会&ワークショップなど、精力的な活動を展開しております。かわさき生活クラブ生協や、川崎医療生協などの賛同も得て、条例制定運動としてより大きな運動の広がりを目指して動いています。

第4回を迎えたおひさまフェス×星空上映会 in かわさきは、星空上映会は残念ながら雨のために中止となりましたが、昼の部では新たな出演者や、再生可能エネルギーを知るためのスタンプラリーなどのイベントも行われ、1000名以上の参加者が訪れ、楽しく有意義なお祭りとなりました。

原発推進勢力に対し、川崎における希望の旗となるべく、原発ゼロ市民共同かわさき発電所は歩みを止めるわけにはいきません。これからも、皆様と共に、一歩ずつ歩みを進めていく所存です。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

理事長 川岸 卓哉

2018年2月18日、うしおだ診療所屋上の発電所3号機 完成記念式典『通電式』 汐田総合病院にて



■3/10（日）「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」 第8回テーマは、東海第二原発、再稼働反対と、再エネの拡充

●元東海村村長 村上達也氏がメインゲストスピーカー

今年で8回目になるこの集会には、毎回1000名を超える市民が参加。これほどの規模で地域集会在続いているのは、川崎市民の脱原発への思いの高さを表しているといえるでしょう。

川崎を含め、首都圏すべての住民にとって差し迫ったリスクは、運転40年を超える東海第二原発の運転延長が原子力規制委員会によって認められ、再稼働に向けて動き始めていることです。

改めて言うまでもなく、東海第二原発は首都圏にある原発です。3.11でも重大な被害を受けながら、危うく大事故を免れました。首都直下型地震の発生確率も高いといわれているなかで、もし再び大地震に見舞われ、大事故に至ったら、立地周辺だけでなく首都圏全体が汚染され、住めなくなるでしょう。しかも約3千万人もの首都圏住民は避難もままならず、放射性物質から逃れる術もありません。

首都圏の住民として、日本全体のためにも、東海第二原発の再稼働を阻止することは、最優先課題といえるでしょう。そこで村上達也元村長をお迎えし、地元の立場から同原発の危険性を具体的にお話しいただき、周辺自治体の取り組みについても、お話いただきます。

●再エネ条例制定への賛同

150万人の川崎市こそ、再エネを拡充すべきと、市に条例の制定を求める活動が「川崎地域エネルギー市民協議会」を中心に推進されています。これまでも、3万筆を目標に署名活動が行われています。私たちの実行委員会でも、この活動に賛同し、再エネの拡充を呼び掛けていきます。

当NPO かわ
さき発電所も
出店します

子どもたちの明日を守るために！

私から

あなたから

川崎から

原発ゼロの声を！

第8回集会 2019年3月10日(日)

会場：中原平和公園



3つの大ウソ！ ●「原発は安全」 ●「原発の電気は安い」 ●「電気が不足する」

「事実隠し、嘘、責任をとらない」日本の原発政策を変えていこう！



- 10:30～ 開場（おいしい飲食、市民グループ・ブースなど多数出展）
- 12:00～ 文化行事（楽しい歌・踊り・楽器演奏・和太鼓演奏など）
- 13:00～本集会（ゲストスピーチ、福島事故被災者の訴え）
- 14:15～ デモ行進（会場から音楽にのって行進 ⇒武蔵小杉駅へ）
※予約不要 参加費：無料！ どなたでも参加できます。

ゲストスピーカー：村上達也氏（元東海村村長） 脱原発を目指す首長会議世話人
運転開始から40年が経つ老朽化した「東海第二原発」の廃炉を訴え活動

主催：「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」実行委員会

川崎市川崎区砂子1-10-2 ソシオ砂子ビル7F | 川崎合同法律事務所 三輪 TEL:044-211-0121



福島原発事故から8年目の3・11
忘れてはいけない、再び原発事故を起こさないために
 1人でも多くの方が集まることで、市民の声を可視化して社会を動かす力につながります。

第7回集会(2018年3月)には、1100名以上の市民が参加しました。デモ行進へ出発！

文化行事での歌やダンス たくさんの飲食ブースが出店 市長から原発ゼロのアピール

- ・ 運転開始から**40年**が経つ老朽化して危険な**東海第二原発**の再稼働に反対します
- ・ 原発に替わる電源として水力、風力、太陽光、地熱などの**再生可能エネルギー**を広げます

2019年3月集会への賛同メッセージ募集

あなたの「賛同はいいな」という思いを教えてください。応募いただいた賛同メッセージは、集会の会場、および「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」のホームページに掲載します。
 ※賛同メッセージは、(公式サイト: <http://gansatsu-zero.com>) から登録できます。

●一貫した訴えは「子どもたちの明日を守ろう！」です

地震大国、火山大国といわれる日本で、再び原発事故が、いつ起きるか分かりません。遠い未来ではなく、明日か、数日後の可能性さえあります。何より守るべきは、未来を担う子どもたちではないでしょうか。「子どもたちの明日を守るのは、大人の責任！」との思いで、原発ゼロへの声をあげ続けましょう。

原発ゼロへのカウントダウン in かわさき実行委員会
 背戸柳 勝也



■「安倍改憲NO！12/8かわさき市民集会」に参加しました！

私は「原発ゼロ市民共同かわさき発電所」と「平和をきずく市民のつどい」のメンバーとして、オール川崎市民集会に参加してきました。集会のメインは安倍改憲NO！でしたが、安倍政権の下では福島原発事故を収束させる事さえできず、かえって他の原発をどんどん再稼働させる逆走を許し、再生可能エネルギーで動く社会は到底実現できないと考え、その集会に参加しました。

その集会には、9条の改憲を絶対に許さず、安倍政権を一刻も早く退陣させようと決意している市民や団体が参加していました。菱山南帆子さんのお話は憲法を守り平和を求める運動家としてリアルで身に迫る話でした。



12/8 ゲスト菱山南帆子さん@中原平和公園

また、**2019年**の選挙を睨んで必ず改憲を阻止するために、市民連合と野党共闘を作り上げ、中央と同じような総がかりの運動を川崎でもつくろうとの思いが貫かれていました。その事を訴える市民団体からの発言があり、「平和のつどい」の事務局メンバーであり被爆者でもある山口さんがご自身の被爆体験も話され、被爆者援護と恒久平和の実現も入っている川崎市の「核兵器廃絶平和都市宣言」の実現を訴えました。

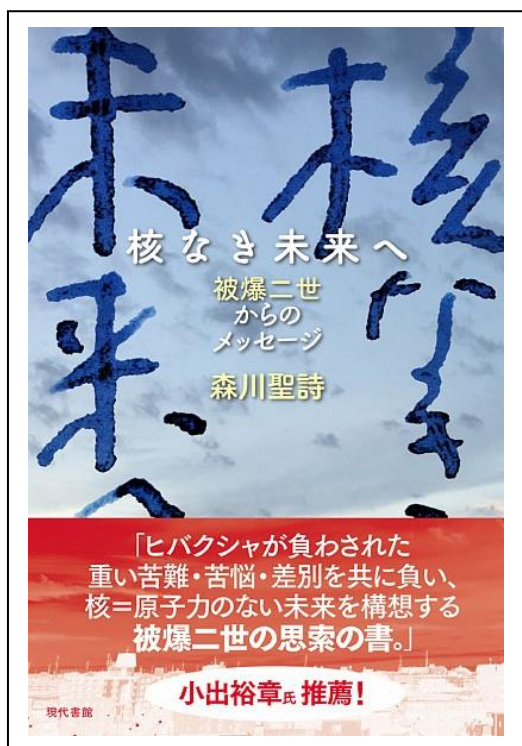
政党からも立憲民主党、日本共産党、自由党、社会民主党、緑の党神奈川、神奈川ネットワーク運動や新社会党からのメッセージが紹介されました。参加者は350名ほどでしたが、川崎市での総がかり運動実現、市民連合と野党共闘の実現へ、その一歩を踏み出したことを確信しました。

理事 田辺 勝義



■単行本『核なき未来へ 被爆二世からのメッセージ』紹介

著者は、当NPO法人の正会員で、被爆二世の森川聖詩さんです。



このたび、単行本『核なき未来へ 被爆二世からのメッセージ』を発売しました。

この本では、前半、私の原爆被爆二世としての様々な体験・半生を綴りながら、その社会的背景、国の核兵器・原発についての政策やそれと関連した厚生省→厚生労働省の被爆二世に対する施策と対応、被爆二世の運動の知られざる歴史と現状などについて記述しています。

そして、後半、日本政府の核兵器開発と原発推進が切り離せない表裏一体のものであることをできるだけ具体的にわかりやすいことばで説明したうえで、原発ゼロ、核兵器廃絶を実現するために、私たち一人ひとりがどのような行動をしていったらよいのか、誰にでも、その気持ちになれば踏み出せる一歩について、いくつかの提案をしたものです。

本来、上下巻等、2分冊相当の分量のものですが、通読していただきたい内容でもあり、1冊にまとめました。

3.11以降、8年が経とうとしている今なお、福島多くの地域で、環境への放射線の放出が続いているにもかかわらず、国は、

放射線被ばくによる被害をないものにしようとし、現状を「アンダーコントロール」としています。

さらに、放射線に対する感受性の強い子どもを守るために母子または家族で自力避難している人たちに対して「歩く風評被害」というレッテルを貼り、被災者の分断を図り、人権、健康を守る権利を奪おうとしています。

今の国のねらいは、核の被害について、原爆被爆者までで幕を引き、被爆二世・三世と福島被災者への保障の必要をないものとして切り捨てる、いわゆる棄民政策を推し進め、「核放射線は怖くない」とうそぶきながら、完全に破たんしている原発の稼働を無理にでも強行し、核潜在保有能力を維持することにあります。

本のなかでは、このような国の動向を被爆二世の立場からとらえ、具体的に解説しながら、今、私たちに何ができるか、何をなすべきか提起しています。

ぜひ、ご一読いただければ幸いです。

著者 森川 聖詩

【編集後記】

「原発ゼロへのカウントダウン」の実行委員会は年1回の集会にとどまらず、他にもイベントを開催したり、毎月の会議では原発に関連する学習の時間を設けたり、また、定期的に駅頭でアピールも行っています。3/10の集会を盛り上げるためにも、ぜひHPに「賛同メッセージ」をお寄せ下さい！（加藤伸子）

■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090-7948-6189（川岸）

■でん太通信2月号はお休みさせていただきます。

